

特集コンクリートポンプ

全国コンクリート圧送事業団体連合会 佐藤隆彦会長

24年上限規制対応急ぐ

従業員の処遇改善必須



送業が抱える課題を教える。

「コンクリート圧送業が抱える課題を教える。昨年からの今年にかけて、全圧連や各組合の理事会、ゼネコンの会議などいずれの合会でも働き方改革への対応が最大の課題となっ

建設業界の働き方改革施行まで1年を切った。労働時間の上限規制が災害復旧以外で適用される。コンクリートポンプ車を用いた圧送作業ではモータープール(車庫)から施工現場の往復、事前準備や後片付けなどを労働時間に含まれると、実際の作業時間が大幅に減るとの懸念を抱いている。圧送業界の今後について全国コンクリート圧送事業団体連合会(全圧連)の佐藤隆彦会長に聞いた。また、圧送業の技術的動向や学会の取り組みについて日本大学理工学部の中田善久教授に語ってもらったほか、各地の組合や圧送業者、建機メーカーの動向をまとめた。

ている。労働時間の上限規制にどう対応するかだが、根源的な課題は人手不足に尽きると言っている。圧送業に限らず、建設業共通の大きな課題であり、他の専門工事業で人員の充足率が上がったという話は聞かない。大きな進展がないのが実態である。週休2日の実現に向けて取り組みは以前から進めており、今は割合は増えており、各社の努力が求められる。4週8休は未知数だが、今年に入りゼネコン団体の取り組みも活発になっており、近い将来の実現に向けて今から準備する必要がある。」

来年3月に技術大会

実務の話題共有を図る

外国人技能実習生や特定技能の活用も進んでいます。外国人技能実習生など近隣諸外国と人の取り合いになっていく。優秀な人材は誰もほしと思っているが、魅力的な賃金を出せない。当社もベトナム各地で人材の発掘を急いでいます。建設産業専門団体の建設業(建専連)で副会長も務めています。建設業も同様に雇用の改善に力を入れている。特に建設キャリアアップシステム(CCU)の普及拡大や賃上げに力を入れており、3月にまとめた有識者会議の『持続可能

の開催を目指してきたが、コロナ禍で延期となっていた。そのため、6年ぶりの開催となる。論文発表は前回、2会場で行ったが、今回は1会場で開催する。25題程度の論文発表を計画しており、その半分を圧送業者が発表したいと考えている。普段の業務の創意工夫や業務改善につながる資料の活用など実務につながる話題を会員各社には論文にしたいと働きかけたい。また、労働時間など各地の組合の会員減が問題となっており、全圧連自体も組織率が低下している。そこで、未加入組織の拡大を進めている。4月の理事会で愛媛県コンクリート圧送協会(井手治樹会長)が加入した。他の圧送組合の加入申し込みもあるほか、未加入組合の加入も促進し、全圧連の組織基盤の拡充を図りたい。引き続き魅力ある圧送業界を構築するために、会員各社の皆さんの協力と情報交換を密にすることで連携強化をお願いしたい。」

「仙台や東京は残業が常態化しており、特に、合わせて働き方改革に準拠した作業の進める時間の残業をしているのが実態である。現在、ポンプ車にデジタルを導入し、打設作業を行っている時間や移動、休憩など車両の稼働状況を細かく分析しており、この結果を踏まえて、職人の処遇改善を進めるために給

業準備を終えて1日の仕事が終わるという流れ。地方は移動時間が極端に長いということはないが、都市部では片道2時間程度かかるケースも多い。厚生労働省に移動時間の扱いについて確認をとったが、『労働時間ではない』『残業規制を踏まえて早くに上がらせてほしい』と伝えるしかない。そのため、移動時間の扱いについては統一し、その半分を圧送業者が発表したいと考えている。普段の業務の創意工夫や業務改善につながる資料の活用など実務につながる話題を会員各社には論文にしたいと働きかけたい。また、労働時間など各地の組合の会員減が問題となっており、全圧連自体も組織率が低下している。そこで、未加入組織の拡大を進めている。4月の理事会で愛媛県コンクリート圧送協会(井手治樹会長)が加入した。他の圧送組合の加入申し込みもあるほか、未加入組合の加入も促進し、全圧連の組織基盤の拡充を図りたい。引き続き魅力ある圧送業界を構築するために、会員各社の皆さんの協力と情報交換を密にすることで連携強化をお願いしたい。」

「カーボンニュートラル(CN)やSDGsなどの取り組みを進める必要があるだろう。昨年の総会で環境保全に資する施策の研究と推進を行ったため、SDGsを推進するため、SDGを設置したが、コロナ禍の継続や働き方改革対応で思うような活動ができなかった。これは継続課題とし、同WGをどのような活用を目指すのか様々な方の意見を耳を傾け、今後活かしていきたい。」